

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2015年5月)

1. 内政

(1) 統一地方選挙

10日, 統一地方選挙が実施された。有権者数は2, 620, 246人で, 投票率は85.01%であった。選挙裁判所公表の開票最終結果概要は次の通り。

ア 県知事選挙結果(全19県) ※は政党交代があった県

県名	当選政党	当選候補	改選前
アルティガス県※	国民党	パブロ・カラム候補	FA
カネロネス県	FA	ヤマンドウ・オルシ候補	FA
セロ・ラルゴ県	国民党	セルヒオ・ボタナ候補(再選)	国民党
コロニア県	国民党	カルロス・モレイラ候補	国民党
ドウラスノ県	国民党	カルメロ・ビダリン候補	国民党
フロレス県	国民党	フェルナンド・エチェベリア候補	国民党
フロリダ県	国民党	カルロス・エンシソ候補(再選)	国民党
ラバジェハ県	国民党	アドリアナ・ペニャ候補(再選)	国民党
マルドナド県※	国民党	エンリケ・アンティア候補	FA
モンテビデオ県	FA	ダニエル・マルティネス候補	FA
パイサンドウ県※	FA	ギジェルモ・カラバジヨ候補	国民党
リオ・ネグロ県※	FA	オスカル・テルサギ候補	国民党
リベラ県	コロラド党	マルネ・オソリオ候補(再選)	コロラド党
ロチャ県	FA	アニバル・ペレイラ候補	FA
サルト県※	FA	アンドレス・リマ候補	コロラド党
サン・ホセ県	国民党	ホセ・ルイス・ファレロ候補(再選)	国民党
ソリアノ県	国民党	アグスティン・バスコウ候補	国民党
タクアレンボ県	国民党	エベル・ダ・ロサ候補	国民党
トレインタ・イ・トレス県	国民党	ダルド・サンチェス候補(再選)	国民党

イ 全19県党配分

	選挙結果	改選前
FA:	6県	5県
国民党:	12県	12県
コロラド党:	1県	2県

ウ モンテビデオ県知事選挙における政党・候補別得票数及び得票率

<u>拡大戦線(FA)</u>	計447,288票(得票率51.28%)
ダニエル・マルティネス候補	281,954票(得票率32.32%)
ルシア・トポランスキー候補	151,302票(得票率17.35%)
ビルヒニア・カルドソ候補	9,351票(得票率 1.07%)

<u>コンセルタシオン党</u>	計333,743票(得票率38.26%)
エガルド・ノヴィク候補	211,509票(得票率24.25%)
アルバロ・ガルセ候補	104,373票(得票率11.97%)
リカルド・ラチェティ候補	15,837票(得票率 1.82%)

<u>人民同盟(Unidad Popular)</u>	計9,813票(得票率1.12%)
グスタボ・ロペス候補	9,813票(得票率1.12%)

<u>独立党</u>	計5,658票(得票率0.65%)
イバン・ポサダ候補	5,658票(得票率0.65%)

<u>エコロジスト党</u>	計5,234票(得票率0.60%)
セルヒオ・ビジリス候補	5,234票(得票率0.60%)

<u>労働者党</u>	計1,326票(得票率0.15%)
アンドレア・レブエルタ候補	1,326票(得票率0.15%)

<u>白票及び無効票</u>	計70,555票(得票率8.09%)
白票	36,245票(得票率4.16%)
無効票	34,169票(得票率3.92%)
無効観察票	141票(得票率0.02%)

<u>投票数</u>	計 872,291票
有権者数	計1,042,766人
投票率	83.65%

エ 全19県における各党得票数合計及び得票率

拡大戦線(FA)	961,659票 (得票率43.17%)
国民党	568,329票 (得票率25.51%)
コロラド党	155,674票 (得票率 6.99%)

コンセルタシオン党	333,743票	(得票率14.98%)
※モンテビデオ県のみ		
その他政党:	42,207票	(得票率 1.89%)
白票:	91,803票	(得票率 4.12%)
無効票:	73,597票	(得票率 3.30%)
無効観察票	441票	(得票率 0.02%)
投票数合計	2,227,453票	
有権者数	2,620,246人	
投票率	85.01%	

オ 全112市長選党配分

拡大戦線(FA):	37
国民党:	66
コロラド党:	7
コンセルタシオン党:	2

(2) 世論調査

10日の統一地方選挙前に Equipos 社が実施したモンテビデオ県知事選挙に関する世論調査結果は次の通り。

ア 拡大戦線(FA):計56%(内訳はダニエル・マルティネス候補35%, ルシア・トボランスキー候補19%, ビルヒニア・カルドソ候補2%)

イ コンセルタシオン党:計37%(内訳はエガルド・ノヴィク候補18%, アルバロ・ガールセ候補16%, リカルド・ラチェティ候補3%)

ウ 独立党:1%

エ 人民同盟(Unidad Popular):1%

オ 白票及び棄権:5%

(3) 第48回通常国会

ア 5日に上院で、また21日に下院にてそれぞれ政府の税制改革法案に関する採決が行われ、いずれも賛成多数により同法案が可決された。同法案はバスケス政権が最初に議会に提出した9つの法案の一つ。現時点で9法案のうち議会を通過したのは改正地方分権化・市民参加法案及び税制改革法案の二つ。

イ 29日、個人所得税制(IRPF)改革法第19.321号が公布された。同法はIRPFの課税方法の修正を定めるもの。政府によれば今次税制改革により13万3千人の労働者に対する減税がなされ、6万5千人が課税対象外となる。

(4) 液化天然ガス再気化事業

11日付「エル・パイス」紙は、下請け会社の倒産により工事が中断している液化天

然ガス再気化事業に関するバスケス大統領の発言を大要次の通り報じた。

10日、液化天然ガス再気化事業の実施主体である GNLS 社(仏 GDF Suez 社と丸紅で構成)は同事業から撤退するかとの記者からの質問に対しバスケス大統領は、「GNLS 社はおそらく事業から撤退するであろう。GNLS 社が撤退した場合、同社には1億ドルの保証金が課せられる。ウルグアイには同保証金と建設途上の施設が残る。」と述べた。またバスケス大統領は、GNLS 社側代表と会談したことを明らかにし、「GNLS 社側はウルグアイ政府との間で締結した契約の変更を申し出た。GNLS 社は契約期間を15年から20年に、1,450万米ドルのロイヤルティ契約を2,000万米ドルに変更しようとしている。我々は右提案に断固反対した。何故ならウルグアイは約束を真摯に守る国だからである。よって契約相手にも同様の真摯さ、厳格さを要求した。」と述べた。

(5) 過去の国家による人権侵害問題

ア 18日、陸軍記念日(ラス・ピエドラスの決戦204周年)式典がモンテビデオで行われ、バスケス大統領、ウイドブロ国防相、ラカジェ元大統領他が出席した。式典挨拶でギド・マニニ・リオス総司令官は、ウルグアイ軍は歴史的に人々に奉仕する役割を担ってきたのであり、軍の(文民・軍部独裁体制期に人権侵害を行ったという)過去に対する偏見をもって現在兵士として働いている者たちを侮辱・軽蔑しないで欲しいと述べた。式典後ウイドブロ国防相は、記者に対し、ウルグアイ社会全体に軍に対する差別意識が存在し、与党拡大戦線(FA)や市民団体、マスメディアの中に軍に汚名を着せている者たちが存在すると述べた。

イ 19日付で大統領府は、過去に国家によって行われた人権侵害を調査する「真実と正義委員会」(Grupo de Trabajo por la Verdad y Justicia)の設置等を命ずる政令131/015を公布した。同委員会の設置は本年2月にバスケス大統領により表明されていたもの。同委員会は、1968年6月13日以降1985年2月28日まで(1973~84年の文民・軍部独裁政権期を含む)の期間に、国内外にて国家により行われた人権侵害の調査を担う。

政府が任命した7名の委員は次の通り。委員は大統領府の支援を受けるが名誉職であり公職の資格は有さない。

- ・マカレナ・ヘルマン(下院議員・FA)
- ・フェリペ・ミケリニ(元下院議員・FA)
- ・エミリア・カルレバロ(行方不明者家族団体)
- ・スサナ・アンドラデ(アフリカ系ウルグアイ人団体)
- ・ペドロ・スクロフスキ(ユダヤ系団体)
- ・アデマル・オリベラ(プロテスタント教会)
- ・マリオ・カヨタ(カトリック教会)

ウ 22日付で与党拡大戦線(FA)全国政治委員会(Mesa Política Nacional)は、委

員会メンバー全会一致による宣言を発出した。同宣言でFA政治委員会は、人権問題への積極的取り組みはFAが創設以来変わることなく維持している立場であり、バスケス大統領のイニシアチブである政令131/015を支持すると述べた。また、18日のウイドブロ国防相の発言に関し、FA政治委員会は同国防相と見解を共有しておらず、同国防相の発言はFAの立場を何ら代表するものではないと述べた。

2. 外交

(1) 要人往来

ア 西村国交副大臣の当国訪問

2～4日、西村明宏国土交通副大臣が当国を訪問した。4日、西村副大臣は大脇崇国土交通省港湾局長、田中径子駐ウルグアイ日本大使とともにニン・ノボア外務大臣を表敬し、両国共通の関心事項に関し対話を行った。ニン・ノボア外相は良好な二国間関係を強調するとともに、バスケス大統領の訪日招聘に感謝を表明した。西村副大臣は二国間関係、多国間関係に言及しつつ、インフラ分野での当国の複数のプロジェクトへの関心を示した。

イ バスケス大統領のブラジル訪問

21日、バスケス大統領がブラジルを訪問しルセーフ大統領と会談した。会談後の記者会見でバスケス大統領は、メルコスールに関しその巨大な潜在力に言及しつつ、今日メルコスールは加盟国の人々に裨益する機構として満足な状態にはないと指摘し、本年においてメルコスールが優先すべき目標はEUとの自由貿易交渉で合意に至ることであると述べた。

またバスケス大統領はウルグアイ・ブラジル二国間関係に関する10のテーマを挙げた。

- ① 昨年50億ドルに達した二国間通商関係の更なる深化
- ② 特定産品に係る対外共通関税の引き上げ
- ③ 二重課税回避を目的とするウルグアイ・ブラジル投資促進協定の可能性
- ④ 両国サプライ・チェーンにおける通関手続きの確実性保障に関するパイロット計画を本年後半に実施する可能性
- ⑤ 両国教育文化省の協力
- ⑥ カンディオタ(リオ・グランデ・ド・スル州)・サンカルロス(マルドナド県)間で発送電される電力の販売可能性
- ⑦ 両国境を流れるハグアラン川第二国際橋梁建設へ向けた公募入札
- ⑧ 両国境ウルグアイ側における免税品店に関する取引均衡
- ⑨ プンタデルエステ・サンパウロ間航空便の増便許可
- ⑩ 地域統合のファクターであるパラナ川の水上交通活性化

(2) 二国間関係

27日、モンテビデオにて第4回ウルグアイ・パナマ政策協議が開催され、カンセラ外務次官及びインカピエ・パナマ外務次官が出席した。同協議にてカンセラ外務次官は、本年2月及び4月にパナマ政府がウルグアイ産乳製品及び骨付き牛肉の輸入を許可したことに感謝の意を述べた。また同外務次官は、パナマ向けウルグアイ産米の輸出量が減少していることに懸念を表明し、輸出増へ向けた交渉を要請した。その他両次官は、メルコスール・中米統合機構(SICA)間の通商促進、ウルグアイ・パナマ間航空便の増便可能性、ウルグアイ港湾当局によるパナマ運河等の視察受け入れ、ウルグアイにおける浄水整備、保健政策等へのパナマの関心につき話し合った。

(3) アルマグロ前外相の米州機構事務総長就任

26日、米州機構(OAS)常任理事会にてルイス・アルマグロ前外相がOAS事務総長に就任した。27日付で外務省はプレスリリースを発出し、同前外相の事務総長就任を祝福するとともに、同事務総長のもと、アメリカ大陸の諸国と市民が直面する挑戦に対応する機構運営に成功することを祈念しつつ、OAS及びOASの目標にウルグアイとして積極的に関与する旨表明した。

3 治安関係

- (1) 事件発生時に被害者自身、又は目撃者が犯人を追跡して逮捕し、警察へ引き渡すケースが見られる。これを民逮(民間人による逮捕)と呼ぶ。治安悪化に市民が敏感になっていることが窺えるが、警察のように逮捕の訓練を受けていないため犯人に過剰に暴行を加える恐れがある点が問題とされている。最近でも、犯罪を目撃した市民が集団で犯人を暴行し怪我をさせたり、強盗被害にあった被害者が犯人が持っていた銃を奪い犯人を殺害する事件が発生し、現在裁判中である。
- (2) クローン(スキミング)のクレジットカードを大量に所持、使用していた犯人が逮捕され、背後に存在する巨大な詐欺集団につき警察が捜査をしていることが明らかになった。捜査は内務省組織犯罪対策局及びインターポールが行っている。クローンのクレジットカードはパラグアイで作成され、身元不明の外国人によってウルグアイへ運び込まれていた。クローンクレジットカードでは、電化製品から食料品に至るまで大量の買い物がされたと見られる。また、カードで現金も引き出されていた模様である。2011年、プンタ・カレータス地区のキャッシュディスペンサーにおいてヨーロッパ系のクレジットカードを使って現金を引き出した事実で8人のブルガリア人が逮捕された。ホテルを捜索したところ、部屋には500枚の偽造カードが残されていた。本件カード偽造に関わっていたブラジル人ハッカーはウルグアイの刑務所に収容されているが、刑務所へ収容された後も刑務所から犯罪組織へ指示を出していたことが判明、同様事案の再発防止のため、ウルグアイの刑務所を転々と移送されている。同人はアメリ

カ合衆国の有名大学を卒業した技術者で、犯罪で手にした金でヨーロッパ、アジア、南米で豪華な生活を送っていた。本件が明るみにできるきっかけとなったのは、当該ブラジル人が逮捕されたことによる。同人は2013年カラスコ地区のホテルに滞在していた際、泥酔してランブラ通りを自動車で運転していたところ歩道に乗り上げ、警察に逮捕された。その際車の中から30枚の偽造クレジットカード、携帯電話、偽造パスポート等多数の物品が発見された。ブラジル警察が捜査したところによると、同人は3年間で4百万米ドルを騙し取っていたと見られている。

- (3) 現在ドメスティック・バイオレンス被疑者に対してGPS(足首に設置型)を装着させ、犯罪の再発防止に効果を上げているところであるが、同GPSを自宅拘禁刑判決を受けた被告人への装着を検討している。自宅拘禁刑とはいえ、全ての受刑者を管理できるものではなく、刑罰の実効性が疑問視されていたところ、GPS装着により効果を期待している。手始めにモンテビデオ、マルドナド、コロニア、フロリダの各県で実施される予定である。
- (4) 内務省は911電話の着信からパトカーの現場到着までのレスポンスタイムを、モンテビデオ県で目標を8分、カネロネス県において12分とすると発表した。2014年のレスポンスタイムはモンテビデオ県で11分30秒、カネロネス県で9分36秒であった。成績優秀者にはボーナスを支給する。モンテビデオ県では8分を達成した者に100%、8分から12分の者に50%、それ以降のレスポンスタイムにはボーナスの支給はなし。

4 その他

(1) ムヒカ前大統領の伝記出版

週刊『ブスケダ』紙記者であるアンドレス・ダンサ氏とエルネスト・トゥルボビッツ氏が、ムヒカ前大統領の伝記『権力にとって厄介な黒羊―“ペペ”・ムヒカの告白と私生活』(*Una oveja negra al poder: Confesiones e intimidades de Pepe Mujica*, Penguin Random House Grupo Editorial, Montevideo)を出版した。3日にアルゼンチン・ブエノスアイレスの国際ブックフェアにて、また8日にモンテビデオにて、ムヒカ前大統領出席のもと出版記念会が行われた。『ブスケダ』紙によれば発売後1週間以内で既に10,000部を売り上げており、発売後1カ月未滿で数度の増版が行われる予定。

同書は、東京在住のある日本人建築家が、2012年リオ20におけるムヒカ大統領(当時)の演説が動画サイト上に日本語字幕付で掲載されていることを偶々発見するエピソードから始まっている。報道によれば同書におけるムヒカ前大統領のフェルナンデス・アルゼンチン大統領、ルーラ前ブラジル大統領等に関する発言を巡り、ウルグアイのみならずアルゼンチン、ブラジルでも議論が湧き起こっている。

(2) 沈黙の行進

20日、モンテビデオ、コロニア、マルドナド、サン・ホセ、フロリダ、セロ・ラルゴ及びア

ルゼンチンにて、文民・軍部独裁政権期における行方不明者に関する真相究明・責任者処罰を求める「沈黙の行進」が行われた。「沈黙の行進」は1996年より行われており、本年度で20回目となる。報道によればモンテビデオにおける行進にはこれまでで最も多い人数が参加し、「無処罰はもうたくさんである。我々は真実と正義を求める」(Basta ya de impunidad. Verdad y justicia)の横断幕及び行方不明者の顔写真プラカードを掲げ7月18日大通りを行進した。行進には行方不明者家族団体、学生団体、人権団体、政治家、労働組合等のほか、アルゼンチン人でフォーク・ポップス歌手のレオン・ヒエコ氏が参加した。

(了)